森の家

～ 省エネ、 創エネ、 光合成 ～

脱炭素社会が声高に謳われるようになって久しいが、 我が国においても「2050 年カーボンニュートラル」を掲げ、建築物の省エネ義務化の範囲拡大、 断熱性能の更なる向上促進などの動きが本格的になってきた。 建築・住宅業界ではクリーンエネルギーでより高効率な設備導入と先述した断熱性能の向上が現状において最も取り組みやすく実例も多い。 また、 本コンペの設計条件にもあるように今後創エネ設備の要求も高まっていくだろう。

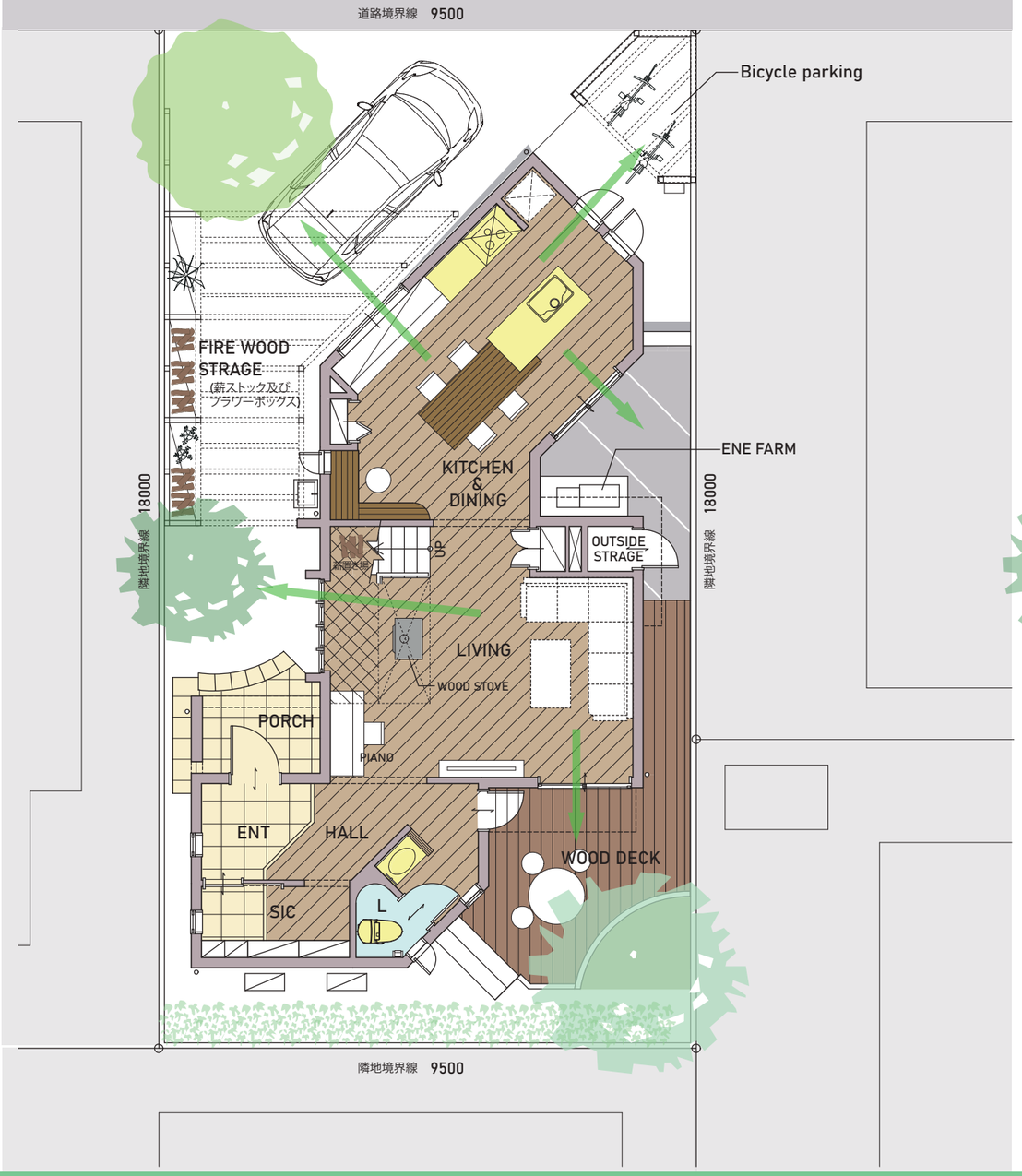
これらは CO2「排出量削減」に資する方策であるが、ここで思い起こしてほしいのは、 CO2 の「吸収量」についても目を向ける必要があるということである。 事実、 環境省脱炭素ポータルサイトによれば、「カーボンニュートラル＝CO2 の排出量と吸収量を均衡させること」と謳っており、CO2 吸収量の増加は即ち植樹を始めとする緑の創出であることは容易に想像できる。 高性能な省エネ設備の充実と断熱性能の向上を図る一方で、 豊かな緑を置くこともカーボンニュートラルには必要な要素であり、 それにとどまらず住まい手の豊かな生活やファサードデザインにまで寄与できると考える。

PERSPECTIVE

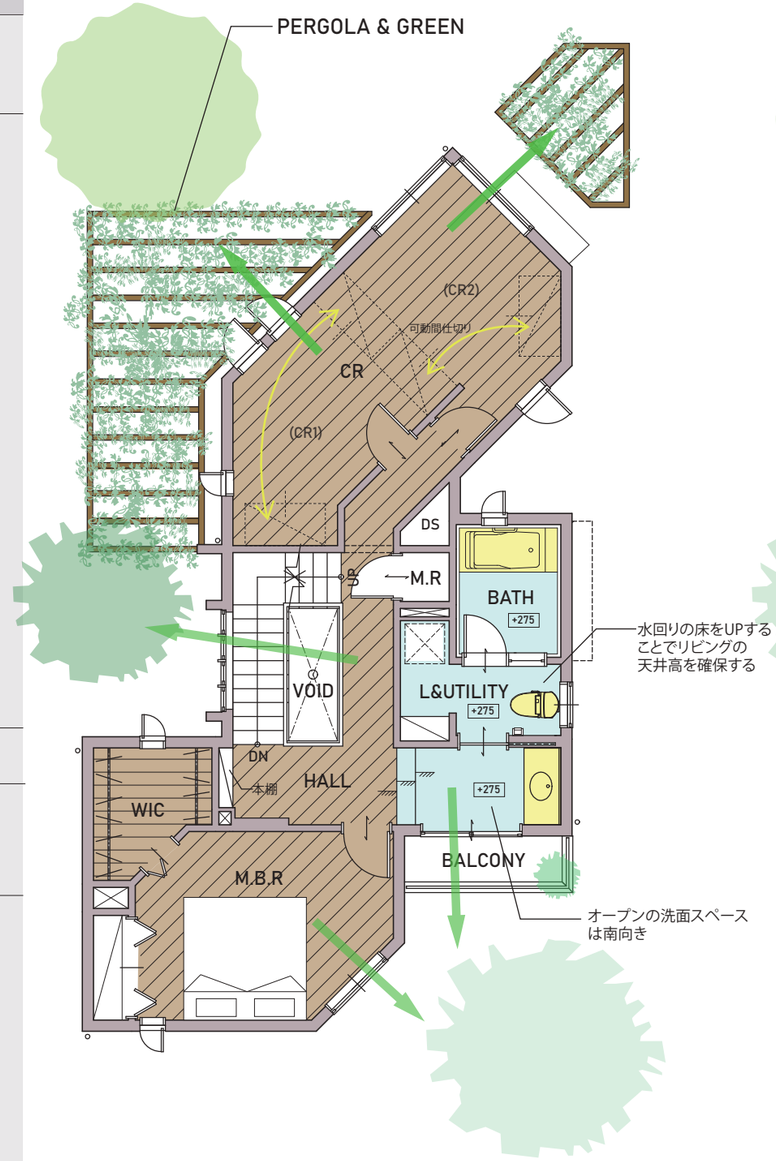
建築面積	67.47㎡（建ぺい率 39.33%）	最高高さ	8.85m（塔屋を除く）
1F床面積	63.55㎡	塔屋高さ	3.20m（＜5m ∴高さ不算入）
2F床面積	65.41㎡		
塔屋床面積	6.00㎡	塔屋水平投影面積	8.18㎡（≦67.47×1/8 ∴階不算入）
延べ床面積	134.96㎡（容積率 78.86%）	小屋裏面積	6.10㎡（≦65.41×1/2 ∴階不算入）
敷地面積	171.52㎡（51.72坪）		

玄関を奥に配置し、緑化されたパーゴラを通過することで深い森へ分け入る様な長いアプローチ計画とした。階段と滞在時間の長いリビングを中央に配置して水平・垂直方向ともに円滑な動線計画となっている。2階水廻りは床を上げる事で1階リビングの天井高を確保し、オープンな洗面スペースは南からの自然光を利用する。住宅内の随所の窓からは樹木やパーゴラに這う草木が見え、屋内にいても緑を感じられる計画となっている。

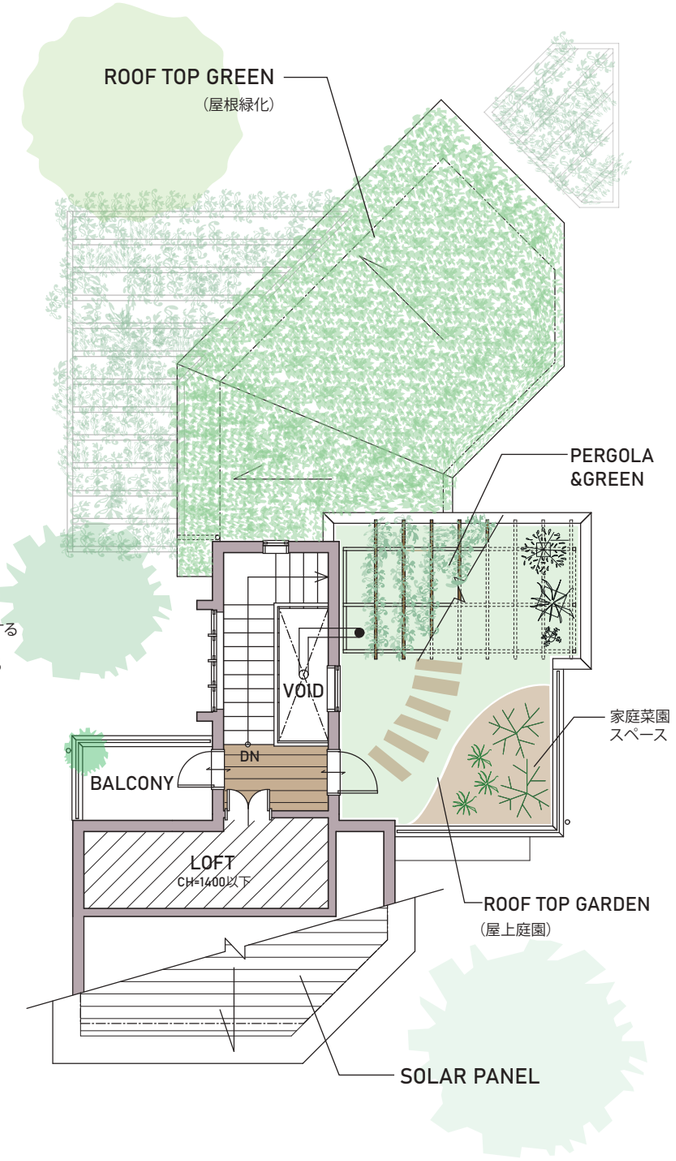
収納については約2坪の小屋裏収納、また外から使える物置を用意した。子供室は可動間仕切りによって可変性を持たせ、ライフステージに合わせて1室利用と2室利用を選べるよう計画した。創エネ設備として太陽光パネルを設置した他、エネファームの設置（コージェネレーション）、屋根・屋上緑化（遮熱）、薪ストーブ（バイオマス燃料）を計画して省エネにも最大限配慮している。



1st floor & site plan



2nd floor plan



Pent House＆Loft floor plan

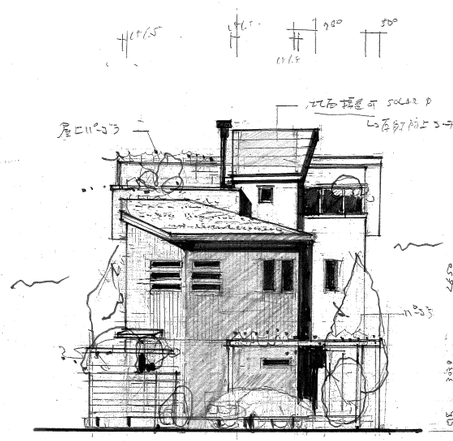
…緑の見え

N

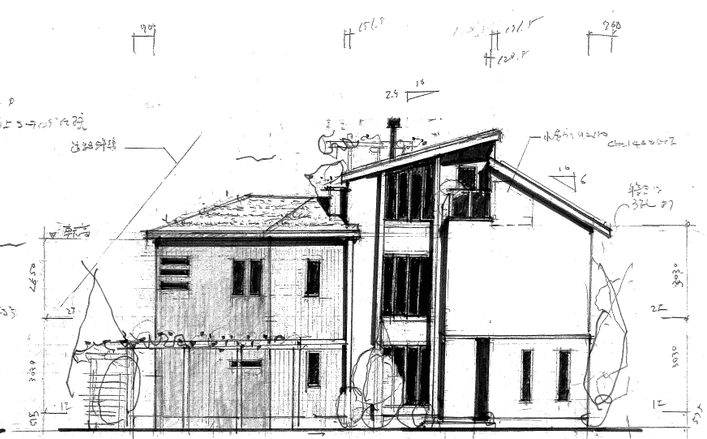
S=1:100

東より見る。
吹抜けに面した窓より朝日をふんだんに取り入れる計画。 北側の雁行部分は外壁を木材仕上とし、 屋上緑化を施すことで住宅街に立つ大きな木をイメージ。
薪ストーブの煙突は外観のアクセントとしてもひと役買っている。

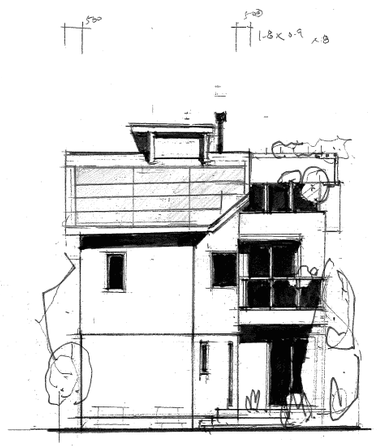
南東より鳥瞰。
創エネ設備として、 南北に下る片流れ屋根には太陽光パネルを搭載。 屋根・屋上・パーゴラ上部の緑化により狭い敷地の中でも緑の面積を確保。 外構についても芝生やウッドデッキにより地表面を遮熱し建物周囲の温度上昇を抑える。



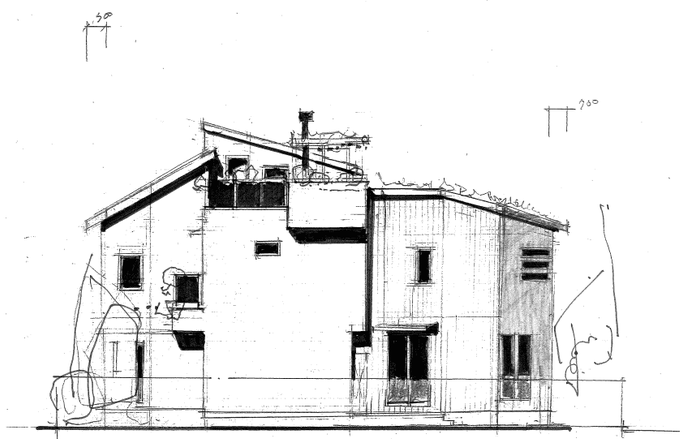
NORTH ELEVATION



WEST ELEVATION



SOUTH ELEVATION



EAST ELEVATION

PERSPECTIVE & ELEVATIONS